

## 見逃し三振より空振り三振

宮城県名取市立みどり台中学校

二年 本田 千尋

「すみません。出たくないです。」そのように言うてしまったことを今でも後悔している。本当は試合に出たかった。試合を試してみたかった。あの時、勇気を出して、一歩踏み出し「試合に出たいです。」と、なぜそう言えなかったのか。

私は小学三年生から柔道を習い始め、それは小学五年生の試合の日のことだった。団体戦の補欠で出ている私は、一人の先輩の姿が見当たらないことに気づいた。すると監督が私のところへ息を切らしながら走って来て「先輩が足に怪我をして試合に出られないらしい。千尋、試合に出てみるか。」と声をかけてくださった。だが、私はすぐに「はい。」と答えることができず、固まってしまった。そして、相手を見てみた。とても体格がよく、私の心の中では「負けてしまったらどうしよう」という後ろ向きな気持ちと「だけど、頑張つて戦ってみようか」という前向きな気持ちの、二つの気持ちが葛藤していた。そして相手が六年生であったこともあり、自分が負けて、チームの足を引つ張つたらと、失敗を恐れ「すみません。出たくないです。」と、私は言うてしまった。

そして、別の補欠の選手が出ることになり試合が

始まった。私は浮かない気持ちで晴れないまま、先輩方の試合を見ていた。そして私のかわりに出た補欠の選手の試合が始まり、補欠の選手は私が恐れていた相手に勝利した。私はこの試合を見て、よりいっそう浮かない気持ちが重くなった。その時、監督がそばに来てくれた。そして私に話しかけてくれた。「千尋、本当は出たかったんじゃないのか。」私は無言のまま、うなづいた。「なぜ出なかったのか。」と聞かれ、迷っていたことを全て漏らさず、答えた。すると「失敗しちゃダメなんて誰が決めたんだ。大切なのは、挑戦してみたいか、してみたくないかの気持ちなんだよ。」と言われ、私ははっとした。結果にこだわりすぎていて、後ろ向きなことばかり考えていた。けれど大切だったのは結果ではなかった。挑戦してみようという向上心。それこそが大切だと気づいた。しかし、私は自分の成長につながる機会であったにもかかわらず、その機会を自分で潰してしまったことを知った。本当は試合に出たい気持ちは誰よりもあったのに。やりたいことへ挑戦し、その失敗を恐れて試合に出なかった。その後悔が私の胸をしめつけていた。

監督が話していた通り、大切なのは挑戦してみたかという気持ちなので、失敗を恐れずに挑戦してみることみなさんも心に留めてほしいと思う。また、失敗してはダメ」ということは絶対にならない。挑戦しないで、後から「やればよかった。」と後悔するより、挑戦してみたら後悔する方が、仮に失敗してもずっと気分もすっきりして、次に進めると私は考えている。

この出来事があったから、私は自分自身のやりたかどうかの気持ちに素直に従って、いろいろなことに、自分から挑戦するようになった。みなさんはどうですか。自分自身のやってみたいという気持ちに素直に従っていますか。「自分にはできないんじゃないか。」

不安になる人もいると思う。しかし、その結果は未来にある。未来にある結果は誰にも分からないものだ。だから、やってみないと分からないことを「できるかな」「できないかな」と考えるより、勇気を振り絞って、一歩踏み出して、新たなことへ挑戦してみることが大切である。そして翌年、ある個人戦に出てみないかと誘われた。その個人戦は、ライバルが大勢出場する大会だった。私はその時も、試合に出ようか出まいかととても悩んでしまった。しかし、団体戦のことを思い出し、「後悔しないように、挑戦してみよう。」と思い、その大会に出ることを決断した。結果は負けてしまったが、気分はさすががしく、その悔しさをバネにして、次も頑張ろうと精神的にも成長できたと思う。

後悔をしないために、後ろ向きなことばかりを考えて、物事から逃げない。頑張つて挑戦してみると、見逃し三振より空振り三振という精神を心に留めて。同じような後悔を二度と繰り返さないように。そして、さらに日々成長していけるように頑張つていきたい。